

学生ボランティアに関する一考察（2）

Considering Student Volunteer Workers（2）

石黒 康子 関 好博 大門 信吾 富岡 徹久
ISHIKURO Yasuko, SEKI Yoshihiro, DAIMON Shingo and TOMIOKA Tetuhisa

I. はじめに

本学では、文部科学省の平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に選定されたのを機に学内に「ボランティア・地域活動センター」を開設し、多くの学生がボランティア活動に取り組んでいる。

第1報では、「請負型」のボランティア活動の参加状況と活動のあり方や課題を明確にし報告を行った。今回は、平成20年度からの学生ボランティア参加状況の推移と本学が選定された学生支援プログラム「地域をキャンパスとした人間力向上の取組み」の特色である「提案型」ボランティアの各学科の取組み内容を明らかにして、第2報として報告する。

II. 方法

1. 調査内容

- (1) 平成20年度 1年間におけるボランティア依頼件数及び参加件数
- (2) 平成21年度 前半6カ月間におけるボランティア依頼件数及び参加件数
- (3) 各学科別参加状況
- (4) 各学科「提案型」ボランティア活動の取組み内容

2. 調査時期

平成21年9月

3. 調査方法

ボランティアの参加状況について、「ボランティア受付一覧」を基に依頼件数、参加件数、各学科参加者数について集計を行う。

いしくろ やすこ せき よしひろ（福祉学科） だいもん しんご（経営情報学科）
とみおか てつひさ（食物栄養学科）

「提案型」ボランティアについては、2回目の「地域フォーラム」での実践報告や日頃の取り組み状況を明らかにする。

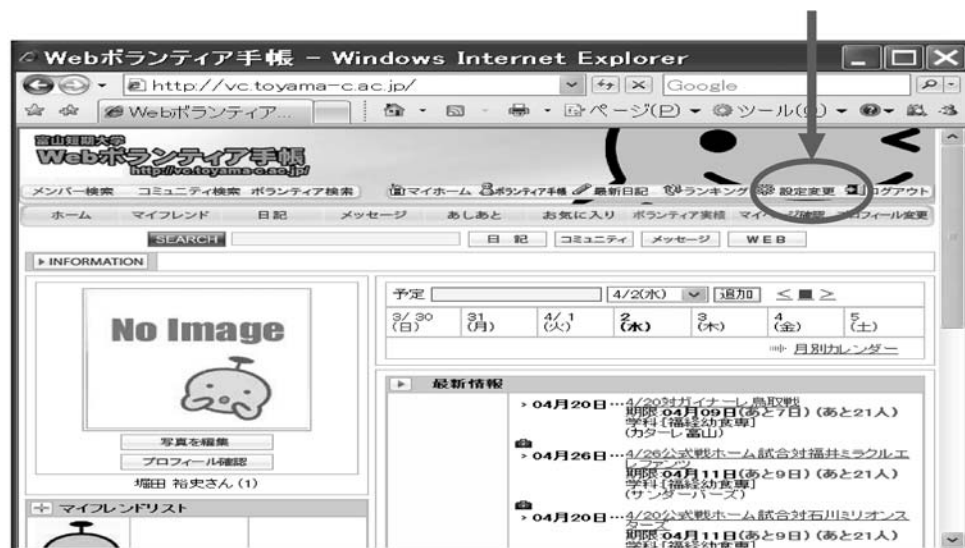
なお、学生がボランティア活動に取り組むまでの手順については、第1報で示した。また、Webボランティア手帳への関心を高めるために「ボランティアの手引き書」を作成して学生全員に配布を検討していたが、所持するにも一冊で済むことを考慮し、「学生生活のしおり」に説明と操作方法を掲載した。

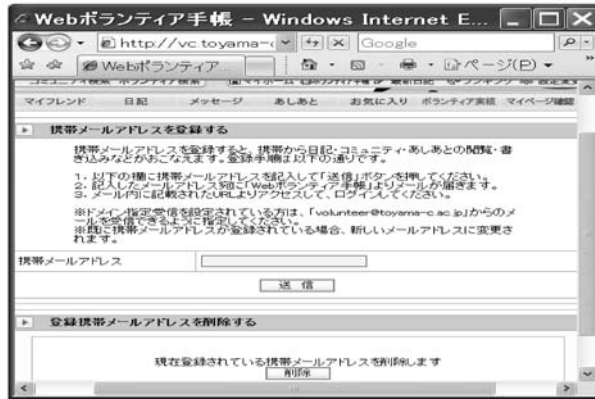
Webボランティア手帳の操作方法については、以下の通りである。

4. Webボランティア手帳操作方法

「Web ボランティア手帳システム」の使用について

1. 携帯等のメールアドレスの設定





2. コミュニティへの参加の登録



3. ボランティアの証明書



- (1) トップ画面でアドレスとパスワードを入力して、マイページを開く。
- (2) マイページに、締め切り順にボランティア募集の一覧表が掲載される。
- (3) 募集ごとのコミュニティを開き、開催団体の情報を確認する。
- (4) 募集イベントを開くと、ボランティア内容の詳細を見ることができる。
- (5) 参加登録をすると、開催前日に「明日〇〇ボランティアがあります。忘れずに参加してください」とのメッセージが携帯電話に届く。
- (6) ボランティア活動の翌日には「レポートとアンケートを書いてください」というメールが各自の携帯電話に届く。また、学生のレポートに対して担当教職員からメッセージを書き込む。
 レポートの書き込みが済むとイベントページは赤枠になって掲載され、だれでも書き込みを閲覧することができる。
- (7) 各自でボランティア履歴書を出し、自己PR資料などにも活用する。

Ⅲ. 結果及び考察

1. 学生のボランティア状況

- (1) 平成20年度 1年間におけるボランティア依頼件数及び参加件数

表1 平成20年度 月別ボランティア依頼・参加件数一覧（単位：件）

項目 \ 月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
ボランティア 依頼件数	5	18	28	51	87	36	26	55	30	16	43	39	434
ボランティア 参加件数	4	9	15	11	43	17	12	35	14	7	23	13	203
ボランティア 不参加件数	1	9	13	40	44	19	14	20	16	9	20	26	231
ボランティア 参加率	80.0%	50.0%	53.6%	21.6%	49.4%	47.2%	46.2%	63.6%	46.7%	43.8%	53.5%	33.3%	46.8%

表1は、平成20年4月～平成21年3月までの1年間におけるボランティアについて、依頼件数を月別にまとめ、学生の参加状況を示したものである。依頼件数では8月が最多の87件で、1年間では434件にのぼった。表1に示しているのは、いわゆる単発の行事への募集であるが、実際のところ、随時の募集を含めると450件に達している。

ボランティアの参加率については、前報の6カ月間の平均が44.0%であったが、その後、後半6カ月間を含める1年間の平均が46.8%と2.8ポイント上昇し、半数近くに達してきた。7月の参加率22.0%と最も低かったのは、同月にある本学の前期末試験が影響したと思われるが、2月の参加率が53.5%と高かったのは、試験終了後、学科に関係するイベントに複数参加したことが要因として考えられる。そのため、ボランティアの開催時期が学生の参加率に影響を及ぼすことがうかがわれる。

(2) 平成21年度 前半6カ月間におけるボランティア依頼件数及び参加件数

表2 平成21年度 月別ボランティア依頼・参加件数一覧(単位:件)

項目 \ 月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	6カ月間の合計
ボランティア 依頼件数	20	34	33	47	70	32	236
ボランティア 参加件数	8	15	25	24	48	16	136
ボランティア 不参加件数	12	19	8	23	22	16	100
ボランティア 参加率	40.0%	44.1%	75.8%	51.1%	68.6%	50.0%	57.6%

表2は、平成21年4月～9月までの6カ月間におけるボランティアについて、依頼件数を月別にまとめ、学生の参加状況を示したものである。依頼件数では8月がこの上半期では最多の70件であったが、昨年比17件の減少であった。しかし、今年度は8月に期末試験が行われたにもかかわらず、参加率は68.6%と昨年の49.4%よりも高い数値を残した。これについては、8月の中旬から後半にかけて学科単位で地域のイベントに複数参加した結果と思われる。昨年と同じ前半6カ月間の参加率を比較すると、今年度は57.6%と昨年の44.0%より13.6ポイントも上昇していることから、ボランティアセンター開設2年目を迎え、受け入れ先や学生に本学のボランティアセンターが浸透してきたように思われる。

(3) 各学科別参加状況

表3 平成20・21年度 各学科別参加状況（単位：名）

学科別	年度	月別												6ヶ月間 合計	1年間 合計	6ヶ月間の 前年度比
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
食 業	H20年	6	5	12	7	37	14	1	29	0	0	38	3	81	152	53.1%
	H21年	0	10	4	0	29	0							43		
専 攻	H20年	0	0	3	0	1	3	2	5	0	0	0	1	7	15	185.7%
	H21年	0	0	1	0	9	3							13		
幼 教	H20年	3	3	9	29	52	16	41	22	7	2	27	24	112	235	141.1%
	H21年	19	5	12	55	41	26							158		
経 情	H20年	7	13	5	10	34	12	33	26	30	13	17	9	81	209	117.3%
	H21年	7	23	20	9	26	10							95		
福 祉	H20年	10	64	47	32	61	13	10	97	42	1	16	6	227	399	117.2%
	H21年	3	22	90	53	86	12							266		
全 学 科	H20年	26	85	76	78	185	58	87	179	79	16	98	43	508	1010	113.2%
	H21年	29	60	127	117	191	51							575		

表3は、平成20・21年度における各学科別の月別にまとめたボランティアの参加状況である。平成20年度は前半6カ月で508名、1年間で1010名が参加している。全学生数は748名であり、135.0%の参加率となる。しかし、延べ人数であるため実際には、複数のボランティアに参加している学生もいれば、不参加の学生もいる。一度はボランティアに参加し、社会や人にふれ、さまざまな経験から学び得たことを生かし、成長してくれるように、さらなる支援の必要性を感じている。平成20年度と平成21年度の前半6カ月間で参加学生を比較すると、1学科を除く3学科で平成21年度に参加者数が増加していた。これまで、福祉学科では毎年5月に行われている「富山県身障スポーツ大会」に1年生が全員参加していることもあり、他学科より参加者が多い傾向にあった。しかし、今年度は雨天中止となり参加できなかつ

たが、他のボランティアに昨年同月3割にあたる学生が参加していた。6～8月にかけても昨年より多くの学生が参加しているが、特に1年生が熱心に参加したことが大きい。

昨年、本学ボランティアセンターが開催した「地域フォーラム」に、本学へ合格している高校生の参加もあったが、在学生のボランティア実践報告を聞き、「入学したら是非ボランティア活動に取り組みたい」との回答も見られており、この世代でボランティアへの参加に抵抗感が少ないことが考えられる。

(4) 各学科「提案型」ボランティア活動の取り組み内容

「提案型」ボランティアとは、潜在的ニーズや地域の抱える課題について調査を行い地域社会の実態を把握し、各学科の専門性を生かした活動を企画して、地域に提供する本学の特徴的な活動プログラムである。

① 食物栄養学科 「提案型」ボランティア

〈「提案型」ボランティアの内容〉

「SATシステム」を使用しての栄養指導や料理教室

「SATシステム」とは、トレーにフードモデルをのせると、その食事のカロリーと栄養バランスをコンピュータ診断するもので、地域住民や施設利用者の食生活に関する意識啓発に資するものである

〈実績〉

「食育フェア」「老人福祉施設での栄養指導」「アスリートの栄養指導」

「高校の部活動生の栄養指導」「栄養教室」等への参加

〈気づきや学び〉

- ・コミュニケーション技術の必要性
- ・数値だけで捉えるのではなく、適切な質問と話しやすい雰囲気づくり
- ・短時間での分かりやすい説明の仕方
- ・さまざまな対象者に応じた栄養指導の必要性

〈まとめと今後の課題〉

- ・ボランティア活動を楽しく行うことができ、自分自身が成長できた
- ・どのような対象者へのアドバイスも自信をもってできるよう、知識とコミュニケーション能力を磨きたい

② 幼児教育学科 「提案型」ボランティア

〈「提案型」ボランティアの内容〉

「パネルシアター」「タペストリー」「エプロンシアター」「ペープサート」

「手遊び」「ダンス」

〈実績〉

「絵本館」「幼稚園」「ファミリーパーク」等での活動

〈気づきや学び〉

- ・参加者の反応が直接わかるので、とても参考になる
- ・授業や実習での学びを活かせる

〈まとめと今後の課題〉

- ・ボランティア活動をとおして、多くの人々と関わることができた
- ・現場の保育士や保護者の方々の生の声が聞けた
- ・貴重な体験を保育の現場に活かしていきたい

③ 経営情報学科 「提案型」ボランティア

〈「提案型」ボランティアの内容〉

「市場調査」「商品企画」

北陸圏の人気パン屋を分析し、試食によるインタビュー調査、これらの分析結果による新商品の仮説導出、仮説を具現化するためのアイデアを創出し、新商品提案を行った

(例) 「牛乳パン」ではなく「白雪姫のミルクロール」とのネーミング

従来のパンにストーリーをつけたり、それに合わせたディスプレイを置いたりしてはどうかなど新商品への提案

- ・画像処理技術を生かしたポスター作成

〈実績〉

- ・キャンパス近隣の障害者福祉施設への支援

〈気づきや学び〉

- ・障害者の雇用を支援する場であること
- ・福祉の事業としても、安定的な収益を得なければならないビジネスとしての課題の存在

〈まとめと今後の課題〉

- ・障害者の自立と社会参加の支援のあり方
- ・新商品企画という活動の魅力と、実践に求められる責任感。そして、専門能力を形成する基礎学力の重要性

④ 福祉学科 「提案型」ボランティア

〈「提案型」ボランティアの内容〉

ア. 『健康体操』 = 年配の方にも馴染みのある「きよしのズンドコ節」に合わせた振り付けを考案し、体を動かすことの楽しさを提案した

イ. 『レクゲーム』 = レクリエーションの授業で学んだことを活かし、楽しい

空間づくりと人間関係づくりにつなげた

ウ. 『在宅介護教室』 = 「介護概論」や「介護技術」で学んだことをもとにして、在宅介護に参考となる知識を提供した

エ. 『おしゃれと装い』 = 施設のみなさんに普段と違う楽しみをおしゃれやマッサージを通して提供し、元気を引き出した

オ. 『伝承遊びと交流活動』 = 施設のみなさんから伝承遊びや昔の生活を教えていただくことで、楽しいコミュニケーションの時間を創り出した

〈実績〉

「介護老人福祉施設」「富山型デイサービス」「グループホーム」等を訪問

〈気づきや学び〉

- ・大規模施設に見られない小規模多機能施設の役割や利用者の方の様子
- ・ボランティア活動は、誰かのために行っているようで、実際、自分のためになっていると感じた

〈まとめと今後の課題〉

- ・「どうしたら楽しんでもらえるだろうか」「どんなふうに進めれば参加してもらいやすいだろうか」など、声掛けや進行のあり方をもっと考えていきたい

本学の特徴である、各学科の特色を活かした「提案型」ボランティアには、このように日頃の学びや学生ならではのアイデアが活かされている。自分たちの日頃の学びの意味を、地域に出てあらためて知るとともに、手応えや課題からさらなる学習意欲につながるなど、学生が得るものも大きいと考えられる。また、社会に出ていくうえでのコミュニケーション能力を高める機会となっていることがうかがわれ、人間力の向上に紛れもなく寄与するものと言える。

IV. 今後の課題

「ボランティア・地域活動センター」の開設から2年目を迎え、参加件数も月別の変動は多少あるものの増加傾向にある。

平成21年の3月に実施した「学生ボランティア・コーディネーター」の研修においても各学科から1年生が複数名参加し、活躍してくれた。今年度は、8月に開催された富山県教育委員会主催の「高校生あったかハートスキルアップ研修会」に補助スタッフとして学生が7名参加し、保育園や高齢者福祉施設でのボランティア体験において、高校生をリードする役割を果たした。本学のボランティアセンターの新しい役割を実感した出来事であった。

また、9月には大阪で開催された「学生ボランティア研修会」に2名、9月末の「富

山県災害救援ボランティア講座」に4名、10月末の県社協主催の「ボランティアリーダー研修会」に本学から1名が、ボランティア活動の取り組みやWeb手帳について実践報告を行った。

今後、各学科の学年毎にボランティアリーダーを育成し、「ボランティア・地域活動センター」への依頼と同時並行で提案型の活動に学生主体で取り組むよう、2年生から1年生への引き継ぎや新入生へのガイダンス充実に努めていきたい。

これにより、2年間の富山短大での生活がより充実したものとなり、また、人としての力を蓄える期間となるようにすることが、本学の使命として考えているものである。

V. まとめ

今回、平成20年度・21年度のボランティア依頼件数、参加件数、学生の参加状況、そして、「提案型」ボランティアの実績を調査した結果、以下のことが明らかになった。

- 1) 平成20年度 1年間におけるボランティア依頼件数は434件、参加件数は203件で、参加率は46.8%であった。
- 2) 平成21年度 前半6カ月におけるボランティア依頼件数は236件、参加件数は136件で、参加率は57.6%であった。
- 3) 平成20年度、平成21年度 前半6カ月におけるボランティア参加者数については508名に対して今年度は575名で、対前年度比113%と大きく上回った。
- 4) 「提案型」ボランティアは、各学科の学びが活かされたプログラムとなっており、地域からも要望が寄せられるほどであった。

すなわち、従来からの「請負型」ボランティアに加えて「提案型」ボランティアを取り入れたことにより、学生のボランティア活動への参加率や参加件数率がかなり高い数字を示すに至った。

自分たちが「学校からやらされる」のではなく、自主的に「やりたいと思う」活動を選んで、気軽に参加できるWebボランティア手帳のシステムを導入したことが大きく影響していることは、かつては福祉学科と幼児教育学科ばかりボランティアに参加していたことを考えれば明らかである。

さらに、上半期の参加実績が昨年より増えていることから、新入生においても、短大でボランティア活動に参加することへの意欲が高いことが予想される。学校としては積極的にボランティア情報の提供に努めると同時に、ボランティアへの正しい理解を深めてもらう機会を設けることで、人間力形成の一つのツールとして活用してもらえ環境を整える必要性をあらためて感じる場所である。

(平成21年10月30日受付、平成21年11月9日受理)